

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記当院の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象となる方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合にはご連絡いただければ研究対象としません。

記

研究機関名	地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター
整理番号	25-503
研究の名称	水溶性造影剤を積極的に用いた癒着性小腸閉塞治療の有用性に関する検討
総研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2026年 03月 31日
試料・情報の利用を開始する予定日	2025年7月16日
研究の対象	2020年1月から2025年4月までに当科で癒着性小腸閉塞に対する治療を受けた方。
研究の目的	近年、腹腔鏡手術やロボット手術といった創が小さく、体への負担も少ない手術方法の進歩と普及が見られておりますが、腹部手術の合併症として癒着性小腸閉塞は未だに多くみられ、入院治療、時に手術治療を要する患者さんも少なくありません。 当科では癒着性小腸閉塞治療において積極的に水溶性造影剤を用いる治療法を行っております。この積極的に水溶性造影剤を用いる治療法については、治療期間の短縮や手術回避に役立つといった有用性が報告されているものの、一般的に確立したものとはなっておりません。 そこで当科で治療を行った癒着性小腸閉塞症例の治療成績をまとめ、改めて水溶性造影剤を積極的に用いた治療の有用性と今後の課題を明らかにすることを目的として本研究を計画しました。
研究の方法	対象患者に関する臨床情報・治療経過（年齢、性別や腹部手術歴、水溶性造影剤使用の有無、治療期間、手術治療の有無、合併症の有無と詳細など）を電子カルテから集めて、詳細に検討します。
研究に用いる試料・情報の種類	情報：電子カルテに記載のある診療記録、検査データ、病歴、治療歴、年齢、性別、具体的な治療内容、治療期間、合併症の有無と詳細、最終転帰等
個人情報の取扱い	患者さんを直接特定できる氏名や住所等の個人情報は、利用する情報から削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

お問い合わせ先	<p><当院の連絡先></p> <p>地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター</p> <p>所属：救命救急科</p> <p>研究責任者：茅田 洋之</p> <p>住所：大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号</p> <p>TEL：072-272-1199(代表)</p>
---------	---

作成日：西暦 2025年 06月 12日 (第1版)